

2014年度自己点検・評価報告書(シート)

【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

| | | |
|------|--|------------------|
| 対象部局 | 統括部局：学長室 | 担当部局：学長室・法人部・企画室 |
| 大項目 | 12 管理運営・財務 《全学的な視点》 | |
| 中項目 | 12.1 管理運営 | |
| 小項目 | 12.1.1 大学の理念・目的の実現に向けて、管理運営方針を明確に定めているか。 | |
| 要素 | 中・長期的な管理運営方針の策定と大学構成員への周知 意志決定プロセスの明確化 教学組織(大学)と法人組織(理事会等)の権限と責任の明確化 教授会の権限と責任の明確化 | |
| 小項目 | 12.1.2 明文化された規程に基づいて管理運営を行っているか。 | |
| 要素 | 関係法令に基づく管理運営に関する学内諸規定の整備とその適切な運用 学長、学部長・研究科長および理事(学務担当)等の権限と責任の明確化 学長選考および学部長・研究科長等の選考方法の適切性 | |

II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

| 2009年度に設定した「目標」 | 左記目標の「指標」 | 進捗状況(達成度)評価 | | | | |
|--|--|-------------|------|------|------|------|
| | | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 |
| 1. 新基本構想推進委員会との協同によって、新中期計画を着実に執行する。 | →新中期計画における各実施計画案の進捗状況 | B | B | B | B | B |
| 2. 新基本構想に盛り込まれながら素案にとどまった諸案の検討を進め、実施計画化する。 | →新規に立案される実施計画案数 | B | B | B | B | B |
| 3. 教員の組織的な連携体制と責任の明確化により、新たなガバナンス体制・マネジメント体制を構築する。 | →2009年12月までに法人と大学が一体となったガバナンス検討委員会の答申を作成し、新たなガバナンス体制・マネジメント体制構築の方向性を大学評議会、理事会に報告し、2010年度以降に引き継ぐ。 | D | C | B | A | A |

☆

| 2010年度以降に設定した「目標」 | 左記目標の「指標」 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 |
|-------------------|-----------|------|------|------|------|------|
| | → | | | | | |
| | → | | | | | |

《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

| | | | |
|-----|---|---|---|
| 目標1 | B | Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 新基本構想推進委員会との協同によって、施策を着実に遂行している。 | ☆ |
| | | Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 全施策74施策のうち、完了したものが9施策、実施計画として進行しているものが59施策である。 | ☆ |
| | | Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 実施計画を着実に完了させることが今後の課題である。 | ☆ |
| | | その他 | ☆ |

| | | | |
|-----|---|---|---|
| 目標2 | B | Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 新たなガバナンス体制・マネジメント体制への変更に伴い、新基本構想に挙げられた諸施策について、効果的に進めるべく、学長を中心に優先度付けや再整理が進められている。 | ☆ |
| | | Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 素案にとどまっている施策数は6である、施策を新たに実施計画に移すことができた。立案から5年を経てなお素案のままである施策の扱いについて検討することが課題である。 | ☆ |
| | | Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 諸施策について再整理がなされたのち、具体的な実施計画に移す予定である。 | ☆ |
| | | その他 | ☆ |
| | | | ☆ |
| 目標3 | A | Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 2013年度4月より、学長が副理事長に就任し、副学長が常任理事に就任し、常任理事が副学長に就任する制度を発足させた。また、研究推進社会連携機構の他に、教務機構、学生活動支援機構、情報環境機構を発足させ、全学的に組織の再編を行った。各機構は副学長が機構長として統括する体制を整えた。 | ☆ |
| | | Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 従来は「法人」と「大学」に分離されていた執行体制を一元化し、機構が自律的に業務を実施できる体制が確立された。 | ☆ |
| | | Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 現在の新たなガバナンス体制・マネジメント体制の下で、教員の組織的な連携体制と責任の明確化が効果的に図られているか継続してチェックする。 | ☆ |
| | | その他 | ☆ |
| 備考 | | ☆ | |